

第2節 川崎市のコミュニティ活動事例に見る「連携」の状況

(1) 事例における「連携」の状況

前節では市内で展開されているコミュニティ活動事例をいくつか見てきました。それらの事例の活動分野、活動目的、活動内容、活動の担い手などコミュニティ活動の要素はそれぞれ異なりましたが、その中で共通して言えることは、多様な主体が「連携」し、活動場面に応じてそれぞれがイニシアティブを発揮している点です。

この辺りに川崎市におけるコミュニティのあり方を探るヒントがあると考えます。そうした観点からもう一度、コミュニティ活動事例を次に見てみることにします。



きれいで住みよいまちづくりをめざしてパブリックスペースを清掃



就学前の子どもと親が楽しく遊べる交流場所

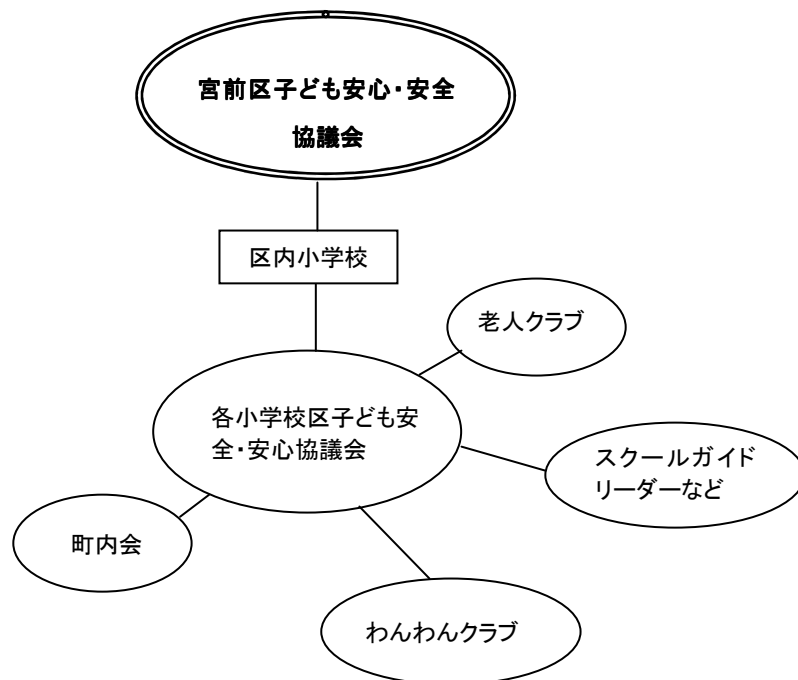
① 宮前区子ども安全・安心協議会

登下校時における子ども達の安全を地域全体で確保するため、宮前区では宮前区子ども安全・安心協議会を設立し、区内の各小学校とその保護者、区民、事業者、警察、行政などが協力態勢を取っています。

この宮前区子ども安全・安心協議会は、小学校区を単位とした活動主体が集合した組織です。

小学校区ごとにその地区の子ども安全・安心協議会があり、それぞれ小学校区の状況に合わせた活動を実施しています。例えば、土橋小学校区子ども安全・安心協議会は、地元の町内会、老人クラブ、わんわんクラブ、青少年指導員などが連携し、活動しています。

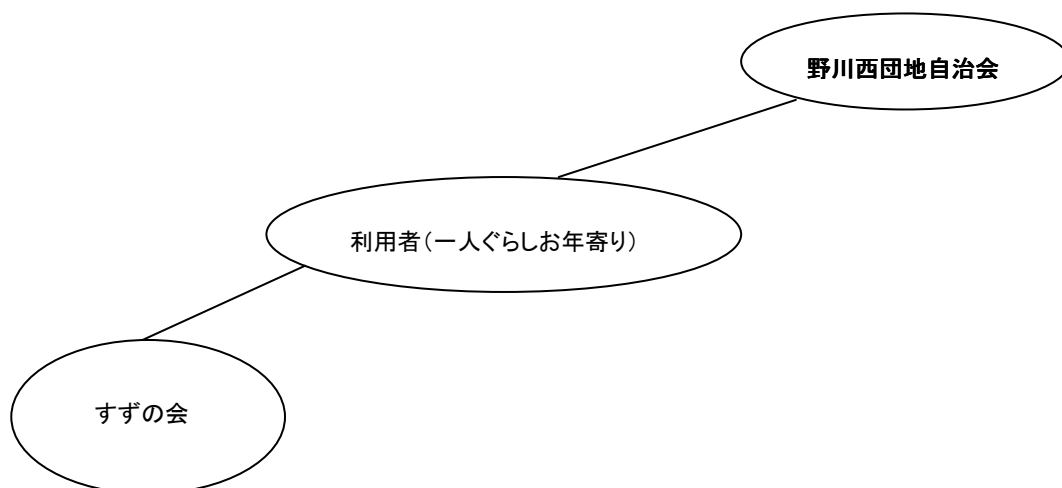
小学校区単位ごとに子どもの安全・安心を作るという課題に、その地区の人達がいろいろな形につながり、協力し合う状況が生まれています。



② 野川西団地自治会

野川西団地に暮らす世帯の4割以上が60才以上の高齢者世帯であり、野川西団地自治会それ自体が高齢化した組織になっています。その自治会が行っている、一人暮らし高齢者の孤独死を予防する見守り活動は、いわば自治会としての自衛策でもあります。現時点では、この取り組みは、自治会で完結しています。

後述しますが、同地域には「すずの会」が介護活動をはじめ多様な取り組みを展開しています。野川西団地に暮らす高齢者もその利用者であります。したがって、一人暮らしの高齢者から見ると、「隣人に見守られている」、「自分一人でない」という安心感を得る自治会の活動と、介護を初めとしたいろいろなサービスを受けられる「すずの会」の活動を組み合わせることで、この野川西団地に永く住み続けられる状況になると期待できます。

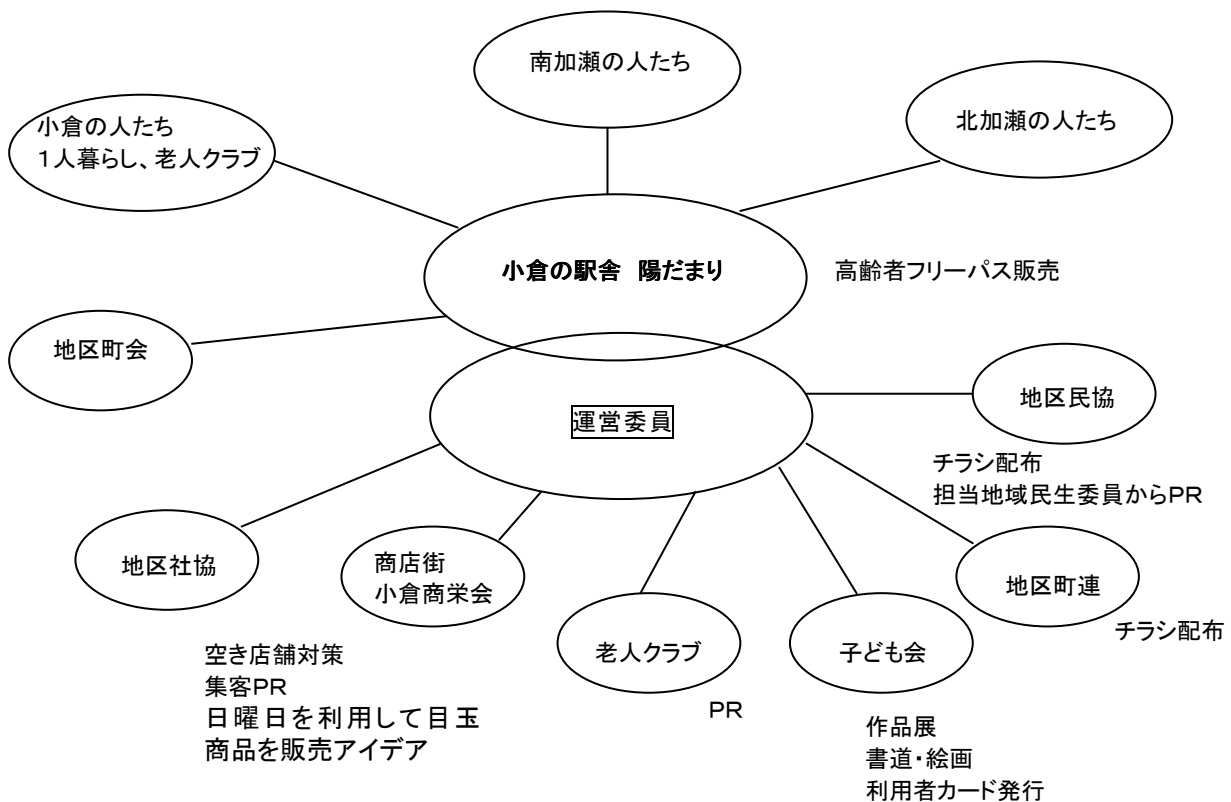


③ 住民交流活動拠点「小倉の駅舎 陽だまり」

住民交流活動拠点「小倉の駅舎 陽だまり」は、幸区社会福祉協議会が重点事業として小倉商栄会通りの空き店舗を利用し設置しました。

幸区の日吉第三地区社会福祉協議会を中心に、小倉商栄会、老人クラブ、子ども会、地区町内会連合会、地区民生委員児童委員協議会、地元町内会の6つの組織で運営委員会を構成し、それぞれの立場で「小倉の駅舎 陽だまり」の運営に関わります。例えば、子ども会は小倉地区で実施している子ども会の作品展で落選した書道や絵画の作品展を「小倉の駅舎 陽だまり」で開催し、地区町連や地区民協は「小倉の駅舎 陽だまり」で催されるイベントのチラシを配布するなどの役割を担います。

そうした地元の関係を巻き込んだ運営のやり方によって、住民交流活動拠点が目的とする出会い、ふれあい、支えあい、学びあうことが実体として機能しています。



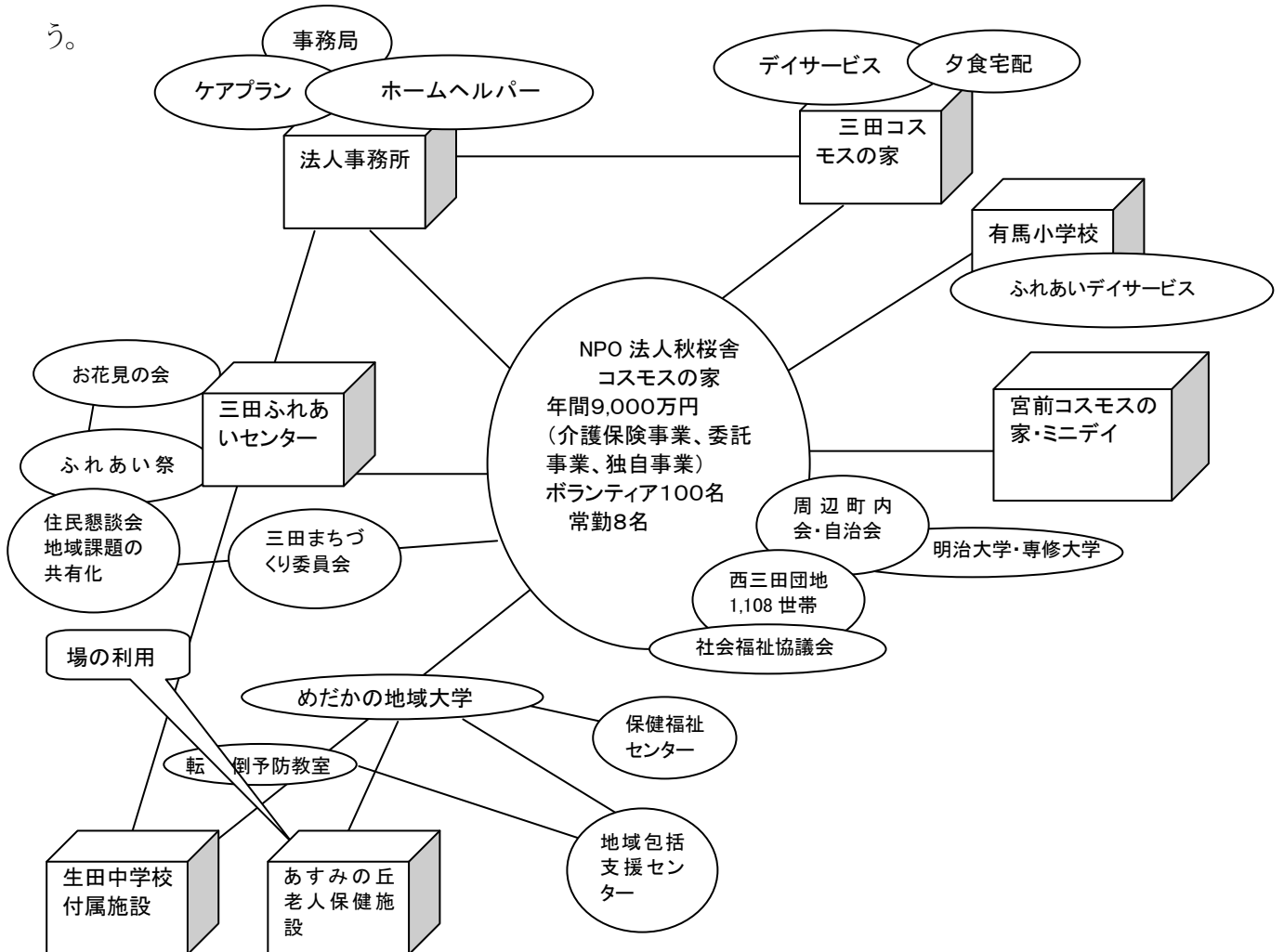
④ NPO法人 秋桜舎 コスモスの家

公団西三田団地(1,108世帯)の中で生まれた「コスモスの家」は、主婦達のボランティア活動から始まり、1999年に「NPO 法人秋桜舎」となりました。現在は、介護保険サービスと併せて、三田ふれあいセンターを会場にした昼食会、ケーキを焼く会、喫茶室、ハーモニカ愛好会、ヨガ教室、俳句の会、パソコン教室、健康麻雀クラブなど幅広い地域活動を展開しています。

そうした活動を含め、地元の定年退職者や主婦達など100名もの方がボランティアとして参加しています。また地元にある生田中学校附属施設を活動場所の1つとして利用しているところです。

区役所、保健福祉センター、そして地域包括支援センターと協力して、生涯学習や社会教育活動を行う「めだかの地域大学」を開校しています。

NPO 法人秋桜舎の地元の人達や、行政などを巻き込んださまざまな活動が基盤となって、西三田団地というコミュニティが互いに支え合う暮らしのネットワークに変わっていくことでしょう。

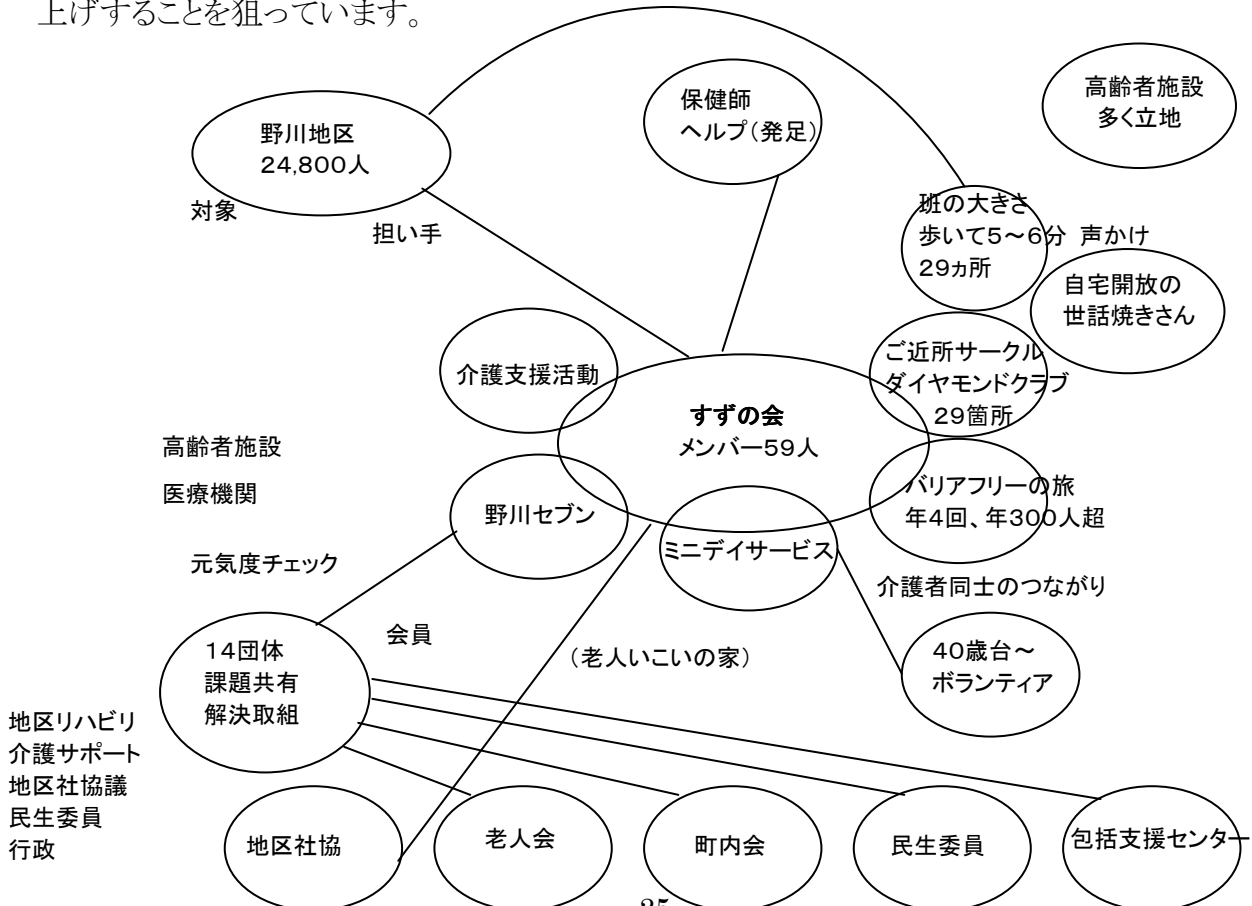


⑤ すずの会

野川地区(約24,800人居住)は高齢化率17%と高く、40年前に電鉄会社が開発した住宅街は高齢化が進んでいます。坂道の多い環境の中で、「すずの会」は活動しています。ミニデイサービス(野川老人いこいの家)、地域調査研究会(地域の要援護者の助け合いマップ作り等)、ダイヤモンドクラブ(自宅サロン等)、介護情報誌タッチの発行、野川セブン(地域ネットワーク会議)、みんなDe体操、バリアフリーの旅、特別養護老人ホーム内での喫茶マロニエといった多種多様な活動が人々のニーズに応える形で次々と誕生してきました。

それらの活動は「すずの会」の有資格者も含む生活感覚豊かなメンバー59人が中核になって進めていますが、加えて、宮前第一地区社会福祉協議会、老人会、町内会、民生・児童委員、包括支援センター、医師会、ボランティア団体など多様な主体と地域の中でつながり、地域にある課題を共有しながら展開されています。

「すずの会」の特徴は、そうしたつながりと併せて地域の中に「世話焼きさん」を多数掴んでいることです。「世話焼きさん」は、自宅を開放したサロン(ダイヤモンドクラブ)を担っている人が多く、「すずの会」は「世話焼きさん」と緩やかな信頼関係作りを心掛けています。そうした人達が今よりも増え、網の目のようにつながっていくことで、野川地区の地域福祉力を底上げすることを狙っています。



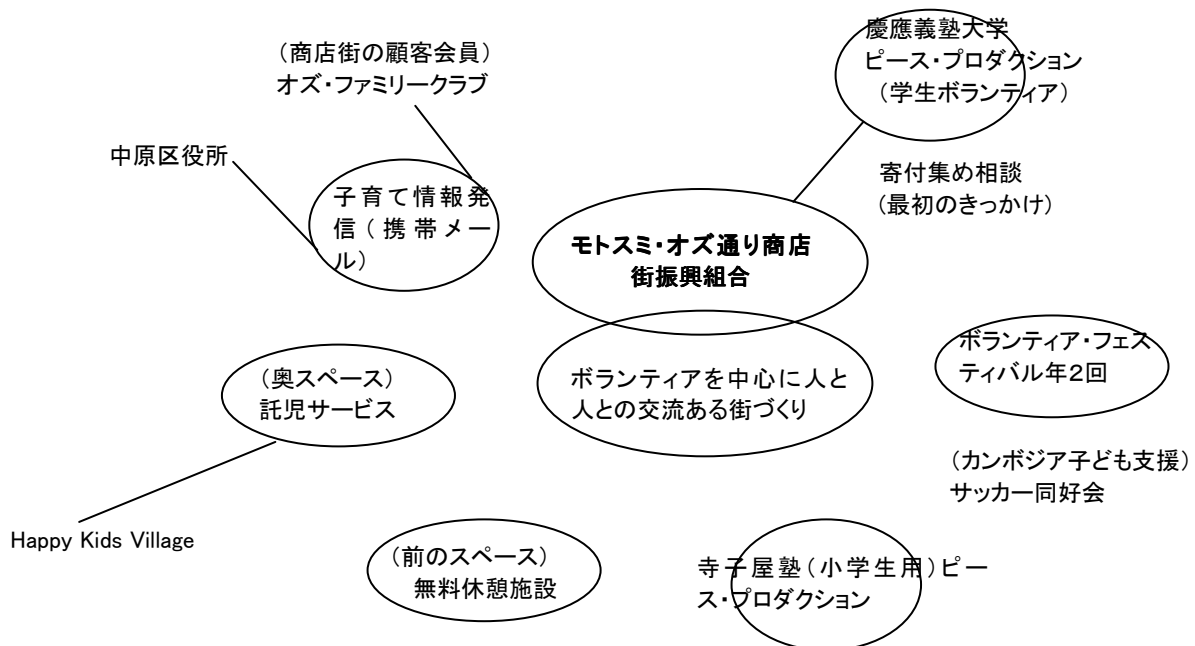
⑥ モトスミ・オズ通り商店街振興組合

「ボランティアの心に満ちた優しさのある街」、「世代間の枠を超えた人と人との交流ある街」を標榜するオズ通り商店街振興組合では、託児サービス、大学生による寺小屋塾の実施、ボランティア・フェスティバルの開催など地域活動を行っています。

その取り組みは、「ピース・プロダクション」(慶應義塾大学のボランティアサークル)との出会いをきっかけに始まりました。「ピース・プロダクション」との関係は現在も続き、寺小屋塾は「ピース・プロダクション」が担っています。

中原区役所の依頼を受けて、子育て情報を「オズ・ファミリークラブ」(商店街の顧客会員)へ携帯を利用して提供しています。

そうした地域活動を開始した背景には、大型店への消費者流出、景気低迷を背景に商店街の集客力が低下してきたことがあります。また、高齢者、子育て中の親、子どもなど多様な世代を巡る身近な課題についてコミュニケーションが図られる場を求めるニーズが、地元の中から発生してきました。昭和25年頃から商店街として発展を始めたモトスミ・オズ通り商店街は、もともと地元地域に密着した商業活動を行ってきた商店街です。それゆえ地元地域において発生したニーズを受け止める土壌があったと考えられます。

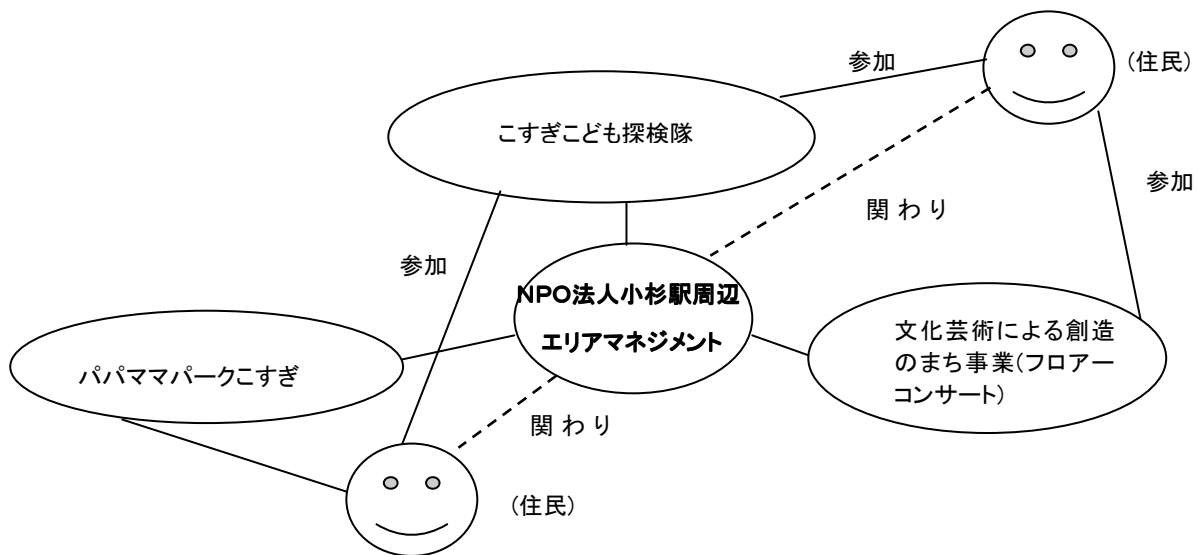


⑦ NPO法人 小杉駅周辺エリアマネジメント

武蔵小杉駅周辺一帯には、工場跡地等の大規模マンション開発によって人口15,000人が暮らす街が誕生します。何もなかった地域の中で、NPO法人小杉駅周辺エリアマネジメントがまちづくり活動や新たなコミュニティの形成に向けた活動に取り組んでいます。

「こどもこすぎ探検隊」、「パパママパークこすぎ」等の取り組みを通じて、近隣住民同士のつながりを作っている最中です。

この土地に縁のなかった人達に移り住むまちだから、誰もが入りやすい活動を介して人間関係を築き、そこを基盤に新しいまちのコミュニティとルールを作っていくことが大切です。



(2) 「連携」が創出するコミュニティ力^{りょく}

川崎市のコミュニティ活動では、多様な主体による「連携」が形成され、そのことで地域の中で人と人との絆が強まったり、課題解決に取り組む態勢が生まれたり、新たなコミュニティが形成されたりする様子が確認できました。「連携」によるコミュニティ活動は、いずれも単体で活動する場合よりも実効があると認められます。

つまり、コミュニティ活動における「連携」によって、コミュニティ力が新たに生まれたり、高まったり、広がったりすると考えられます。では、コミュニティ力とはどういうものでしょうか。先に見た7つのコミュニティ活動事例から、改めて「連携」がどのようなコミュニティ力を創出しているのか見てみることにします。

宮前区子ども安全・安心協議会	
連携の考察	<ul style="list-style-type: none"> 小学校区ごとにその地区の子ども安全・安心協議会があり、それぞれ小学校区の状況に合わせた活動を実施しています。 「子どもの安全・安心」という一点集中の誰もが共有できる課題を軸に、小学校区単位で町内会・自治会、学校、PTA等々が連携しています。 シンプルな課題の解決に成果を挙げています。同時に課題のシンプルさが活動の求心力を生み出しています。 連携の広さが小学校区であることが、さまざまな活動主体のつながりと一定量のマンパワーを確保しています。
創出される力	<ul style="list-style-type: none"> 小学校区内で「子どもの安全・安心」を取組課題として、さまざまな主体が協働するといった人の絆を生み出している力が認められます。(人の絆) その絆を背景にして、「子どもの安全・安心」を学校と親だけの話でなく、地域全体で取り組むものとして、問題を共有し、一緒になって解決する力が生み出されています。(問題の共有と解決)

野川西団地自治会	
連携の考察	<ul style="list-style-type: none"> 地縁型組織の自治会がこれまで蓄積してきた近隣住民同士のつながりや信頼感を手掛かりに危機管理の仕組みを作りあげました。 「孤独死の予防」を合言葉に自治会会員の共通認識を形成し、個人プライバシーに配慮しながら、いざという時に役立つ「緊急時開封方式の連絡表」のアイデア実現に、自治会という日頃馴染んでいる身近な人と人とのつながりが基盤となりました。

	<ul style="list-style-type: none"> 介護等のいろいろなサービスを受けられる「すずの会」の活動を組み合わせることで、野川西団地に住み続けられる状況になると考えられます。
創出される力	<ul style="list-style-type: none"> もともと存在した自治会会員同士のつながりや信頼関係が「孤独死の予防」の取組によって、さらにそれを強める力があります。(人の絆) 「孤独死の予防」を個人や親族の問題から、団地住民の共通の問題として共有する、仕組みを作るなどの解決する力があります。(問題の共有と解決) 仕組みを運用するのに、誰もが理解し、納得するルールを生み出した力があります。(公平で民主的な地域社会)

住民交流活動拠点 「小倉の駅舎 陽だまり」	
連携の考察	<ul style="list-style-type: none"> 地区社会福祉協議会、商店街、老人クラブ、子ども会、地区町連、地区民協、地元町内会の6つの組織が運営委員会を構成し、それぞれの立場で「小倉の駅舎 陽だまり」の運営に関わり、陽だまりの活動を支援しています。
創出される力	<ul style="list-style-type: none"> 陽だまりの運営を通じて、地域のいろいろな主体同士が力を持ち寄って成果を出すなど人の絆を強める力があります。(人の絆)

NPO法人 秋桜舎 コスモスの家	
連携の考察	<ul style="list-style-type: none"> 地元の定年退職者や主婦達、専修大学や明治大学の学生達が活動に参加し、100人程のボランティアを生み出しています。 区役所や保健福祉センター、在宅支援センターと協力し、「めだかの地域大学」を開校しました。 西三田団地のコミュニティが互いに支え合う暮らしのネットワークになりました。
創出される力	<ul style="list-style-type: none"> 年齢や世代がさまざまな人達がボランティアで連帯するといった、人の絆を強める力があります。(人の絆) 地域の介護等の福祉問題に対して、行政機関を巻き込んで解決する仕組みを作り、またコミュニティで支え合うなどの、問題の共有と解決する力が生み出されている。(問題の共有と解決)

すずの会	
連携の考察	<ul style="list-style-type: none"> 地区社会福祉協議会、老人会、町内会、民生児童委員、包括支援センター、行政、医師会、ボランティア団体など多様な主体と地域の中でつながり、地域にある課題を共有してきました。 その結果、ミニデイサービス、地域の要援護者の助け合いマップ作り、ダイヤ

	<p>モンドクラブなど多種多様な活動が人々のニーズに応える形で次々と誕生してきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地域の中で「世話焼きさん」と緩やかな信頼関係作りをこころがけ、「世話焼きさん」が網の目のように広がる絆をつくっています。
創出される力	<ul style="list-style-type: none"> • 介護対象の当事者、その家族、「世話焼きさん」など地域に暮らす人達がつながって地域の課題を一緒になって受け止めることのできる、人の絆を強める力が生まれています。(人の絆) • 地区社会福祉協議会や老人会など地域の多様な主体が、一緒になって地域の問題を共有することの大切さを認識し、それを解決する力が生まれてきています。(問題の共有と解決)

モトスミ・オズ通り商店街振興組合	
連携の考察	<ul style="list-style-type: none"> • 慶應義塾大学のボランティアサークルとの出会いによって、商店街活動から地域活動へ転換しました。
創出される力	<ul style="list-style-type: none"> • 商店街の抱える問題が、ボランティアサークルの関わりによって、商店街構成員の間で把握され、それを解決する力が生まれています。(問題の共有と解決)

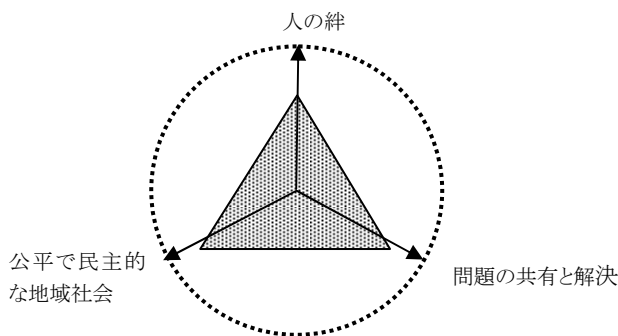
NPO法人 小杉駅周辺エリアマネジメント	
連携の考察	<ul style="list-style-type: none"> • 地域コミュニティをゼロから育てるしくみです。 • 「こどもこすぎ探検隊」、「パパママパークこすぎ」等の活動を通じて、近隣住民同士のつながりを作ります。 • 放置自転車対策、美化活動などのまちの維持管理や保全、安心・安全なまちづくり活動を通じ、入居者を主体に市民活動団体、企業等と連携して良好な都市環境を作り出していきます。
創出される力	<ul style="list-style-type: none"> • 再開発地域のマンション群の中で、自分が関心を持つ活動へ参加することを通じて、誰もがそのコミュニティの一員であるとの意識を醸成する力があります。(人の絆) • 入居者を主体にまちづくり活動や新たなコミュニティの形成に向けた活動に取り組むことで、公平で民主的なコミュニティを形成する力が生まれています。(公平で民主的な地域社会)

これらの活動事例から「連携」によって生み出されるコミュニティ力は、「人の絆」、「問題の共有と解決」、「公平で民主的な地域社会」が要素になったものと考えられます。

この3つの要素の概念を整理したものが下表です。

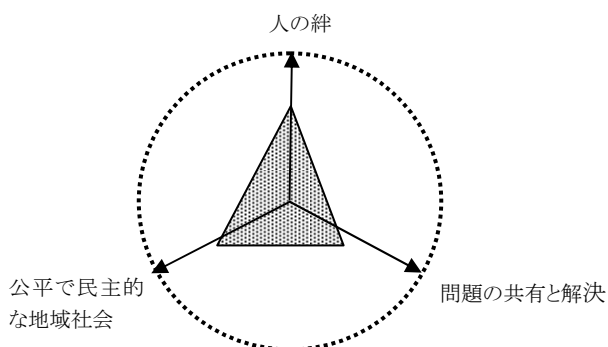
人の絆	地域構成員間の信頼とつながり
問題の共有と解決	地域にある問題の発見、共有、問題の解決
公平で民主的な地域社会	コミュニティの民主的なルールと規範

この3つの要素は、常に等しくあるわけではなく、地域によって、または活動によって、存在の強さに変動があると考えます。それによって、コミュニティ力は以下に示す4つの類型のような状態が想定されます。



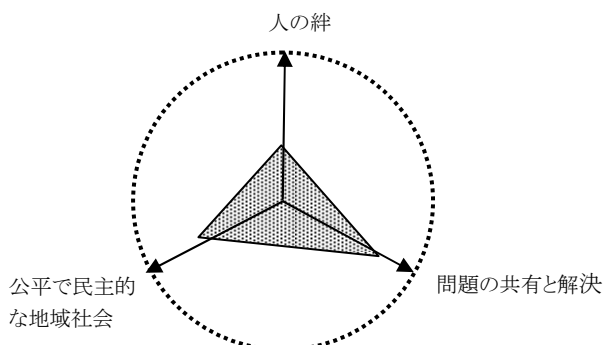
この類型は、連携によって「人の絆」「問題の共有と解決」「公平で民主的な地域社会」が等しく生み出されている状態で、いわばコミュニティ力の基準モデルです。

例えば、野川西団地自治会が挙げられます。



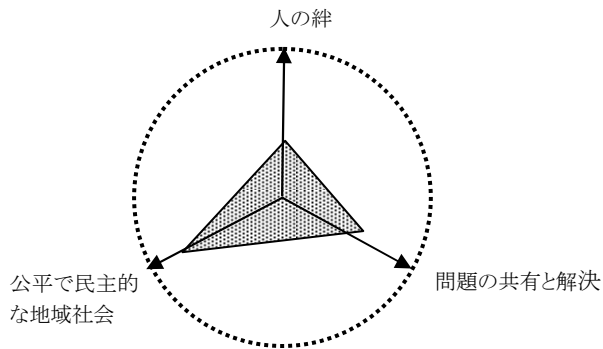
この類型は、連携によって比較的「人の絆」の力が強く生み出されている状態です。

例えば、宮前区子ども安全・安心協議会、小倉の駅舎 陽だまり、秋桜舎 コスモスの家、すずの会、小杉駅周辺エリアマネジメントが挙げられます。



この類型は、連携によって比較的「問題の共有と解決」の力が強く生み出されている状態です。

例えば、宮前区子ども安全・安心協議会、秋桜舎 コスモスの家、すずの会、モトスミ・オズ通り商店街振興組合が挙げられます。



この類型は、連携によって比較的「公平で民主的な地域社会」が強く生み出されている状態です。

例えば、小杉駅周辺エリアマネジメントが挙げられます。



身近な交流場所



俳句教室の様子



お抹茶会の様子



気軽に参加できるコンサート